

■効果の見える治水事業

徳島県 ほたる川 総合流域防災事業



徳島県 東部県土整備局 副局長 秋山 修一

- 事業概要 ほたる川は、吉野川市西部に位置し、西久保付近の山地をその源とし、国道192号あるいは吉野川とほぼ平行して東流し吉野川へと流入する流域面積約7.4km²、流路延長約5kmの一級河川です。
ほたる川流域においては、過去に度々浸水被害が発生していることから、昭和49年度より河川改修事業を進めています。
ほたる川の下流部は平地が開け、浸水被害が発生しやすい地形となっている一方、国道192号が流域内を横断していることから宅地化が進んでおり治水安全度の向上が急務となっていました。
また、平成16年度は相次ぐ台風の影響により、吉野川市では甚大な浸水被害が発生、特に台風23号においては、ほたる川流域で床上28戸を含む66戸の浸水被害が発生し、平成21年度においても台風9号の豪雨で床上3戸、床下5戸の浸水被害があり、早期改修を望む地元の声は以前にも増して強くなっています。
事業進捗状況としては、全体改修延長3,280mのうち、下流約1,800mの整備を終えており、現在、最もネックとなっていた国道192号蛸橋の改築を完了したところであります。引き続き改修促進に努め浸水被害の解消を図ってまいります。

- 施行箇所 吉野川市山川町
- 施行期間 昭和49年度～
- 施行内容 施行延長 L=3,280m
河道掘削、護岸、橋梁等

位置図



H16.10.22 徳島新聞



ほたる川の浸水状況(平成16年台風23号)



狭窄部橋梁の整備完了状況

「ゆとりとふれあいの生活環境の形成」



徳島県 吉野川市長 川真田 哲哉

- 吉野川市は平成16年10月に3町1村の合併によって誕生し、徳島市より西へ約20kmに位置しており、面積が144.19km²、人口が約45,000人のまちです。
美しい清流「四国三郎」吉野川にはぐくまれ、ホタルやツツジの大群生など、四季おりおりの豊かな自然が息づいています。また誇りある歴史と伝統、文化を受け継ぎながら「世を越えて夢紡ぐまち新・生活創造都市をめざして」を市の将来像とし、豊かさやゆとりを実感できるまちづくりに取り組み、市民の日常生活に密着した行政サービスの提供を心がけながら、さらなる飛躍をめざしています。
本市は、徳島県北部のほぼ中央、吉野川の南岸に位置し、市域南部は四国山地の北部にあたる山地で、高越山をはじめとする急峻な山々が連なっており、これらの山々を水源とする飯尾川・桑村川・学島川・川田川・ほたる川などが、市の北辺を東流する吉野川に合流しています。
ほたる川は吉野川の水位の影響を受ける内水河川であることから、平成16年10月の台風23号でも、ほたる川流域一帯に内水被害が生じ、60戸を超える家屋が浸水し、住民生活に深刻な影響を与えました。ほたる川は、河道が狭く、毎年氾濫を繰り返していたため、県において昭和49年度から吉野川合流点上流約3.3kmの区間で、河川改修が進められているところであります。
特に、ボトルネックとなっていた蛸橋の改築工事が完了したことにより、従来より大幅に河道が拡がり、今後の出水時には十分対処ができるものと効果を期待しているところです。
最後に、今後の吉野川市の防災対策といたしましては、ハード整備とソフト対策が一体となった減災対策を基本として、ソフト面においては、ハザードマップの整備や自主防災組織の支援、ハード面においては、雨水貯留施設及び排水機場の設置、地域イントラネット基盤整備事業の光ケーブルを活用した河川監視カメラの設置等の充実を行い、災害が発生した際の応急対策や情報伝達、避難誘導のあり方を再認識し、共通の意識・情報のもとに市民が一体となり、対応するという取り組みを進めていきたいと考えております。



平成16年10月台風23号による浸水被害状況



平成5年8月台風7号による浸水被害状況